

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス糸満教室			
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 3日		～	令和 7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数)	0
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 3日		～	令和 7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	15
○訪問先施設評価実施期間	令和 7年 2月 3日		～	令和 7年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数)	0
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校、ご家庭、事業所等と連携して児童の特性に合わせた支援をしており、児童が困っている場면을観察し支援できる体制を整えている。また、ご家族とも向き合いながら支援の方向性を決めている。	ご本人様の目線で物事を考え、困り感を共有する為、日々会議や声掛け等を行い、全ての支援者が同じ方向性をもって支援できるように取り組んでいる。	学校等での出来事を振り返り、ご家庭や学校等の先生等にアプローチしていく。また、振り返りの際に困り感などがあれば再度、観察を試み方向性を整えていく。
2	個々の児童のアセスメントを適切に行っている事で、課題を客観的に分析した上で職員全体で会議をしながら充実を図っている。	常に児童の事に対して、不明な点や困り感があれば職員間で共有し、よりよい支援につながるよう会議を開く事ができる。	必要があれば都度、学校でも会議を持つなどして、保護者だけではなく学校等の職員とも共有を図り児童が安心して登校できるように支援する。
3	多職種の職員がいること。	・保育士や作業療法士がいる。 ・いろいろな視点で療育に携わることが出来ている。 ・いろいろな視点からの意見を共有しあうことが出来ている。	・いろいろな視点から、アイデア等を出し合い、児童ひとりひとりに合わせた支援が出来るようにしたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問支援を開始できていない。	保護者の皆様が保育所等訪問支援事業をご存じない方が多いことや、学校での困り感の共有が出来ていない。	保育所等訪問支援が必要である児童の保護者へ、支援の内容を説明し利用を促していく。
2	保護者会が無い事で保護者間の共有する悩みや知り合いの輪を広げるとい事が少ない。	・保護者会や交流会の時間の確保。 ・事業所側からの声掛けを行っていなかった。	・面談や交流会の希望を募り、定期的に交流できる機会を設けたい。 ・事業所主催だけでなく、地域でペアトレ等のセミナーが開催された際には保護者さんにも周知を行う。
3	年間計画を通して安全面を大々的に保護者にも児童にも周知できるようにしたい。	年間計画や防災訓練、避難訓練、活動内容などをその都度周知しているが、保護者に行き届いていない様子が確認できた。日々の会話の中でご家庭へ伝えたり、メールや広報誌などでもお知らせはしているが、送迎でお会いできない保護者には足りなかった。	年間計画、その他、大事な計画や報告は送迎時以外でも、周知してもらえるようどんどん話していく。また、メール以外でもお知らせなど広報活動に取り組み、取りこぼしなくお伝えできるようにしたい。